

REPORT

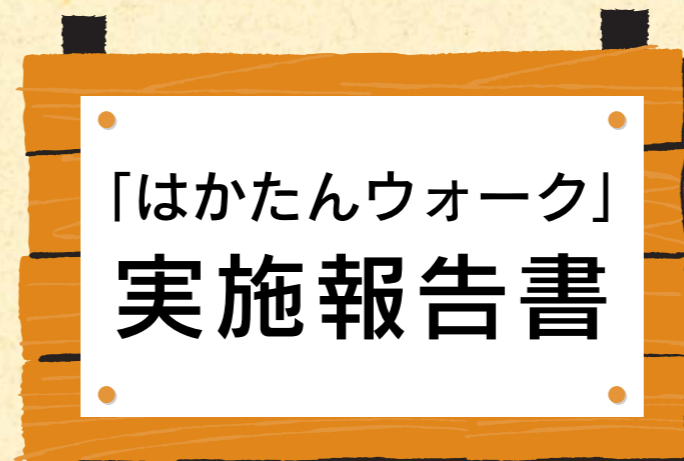
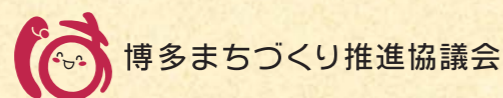
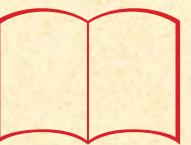
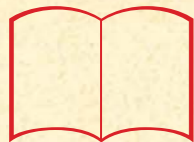


博多再発見!!



Contents

- 1 | はかたんウォーク実施の背景と目的P.01
- 2 | 実施概要と今後期待される取組みP.02
- 3 | 今後のまちづくりイベントの実施に向けてP.17



1 はかたんウォーク実施の背景と目的

1-1 実施の目的

「住む人」「働く人」「訪れる人」。
皆に愛される、誇れるまちを創造する。

博多のまちはビジネスを中心とするまちであり、オフィスビルなどの業務施設が殆どでにぎわいに乏しくなっている。そのような博多が、いつもにぎわいと期待感があり、住民やオフィスワーカーが愛着を感じ、また広域から来街者をひきつける魅力を持ったまちになるように、今回のはかたんウォークでは、博多の魅力を、広く多くの人に楽しみながら知ってもらうための取組みを実施した。



1-2 今年度の施策の考え方

“回遊性向上とにぎわい創出”“地域との連携”の充実へ。
誰もが実感できる施策を展開する。

昨年度は、“安心・快適に通行できる歩行者空間の確保”を目的とした「歩行者・自転車の分離」・「第2タクシープール」・「通り名看板の設置」など、ハード面を中心とした取組みであった。昨年度の実施結果や課題を反映し、今年度は、昨年度の実施や課題を反映し、より内容が充実した施策を目指し、「博多まち歩きマップ」・「博多秋博スタンプラリー」・「博多まち歩きフォトコンテスト」・「灯明イベント」・「オープンカフェ」など、参加者が実際に体験できる内容を中心とした取組みを実施した。



1-3 今年度のコンセプト

昨年度からの改善点を踏まえて…

目的をより明確に、



内なる資源の再認識を促す
博多駅地区を中心とした魅力再発見を!

地域との連携を図りながら、



既存のイベントと連携し、わかりやすいフレームをつくる
博多部や天神地区との連携イベント実施を!

核となるイベントを実施する。



「住む人」「働く人」「訪れる人」が参加できる
「まち歩き」を核としたイベントの展開を!

2 実施概要と今後期待される取組み

2-1 実施のメニュー

いつも近くにあるまち、博多
統一感のある広報展開

》 ロゴ



》 コピー

ぷらっと歩けば
見えんもんも
見えてくるばい。

いつも近くにあるまち、博多。
そこには多くの歴史や魅力、感動が点在しています。
そんな博多を体験、再発見するイベント
「はかたんウォーク」に、ぜひご参加ください。

》 メインビジュアル

B1ポスター



B2ポスター



B3ポスター



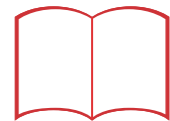
2 実施概要と今後期待される取組み



「回遊性創出」・「回遊性支援」・「にぎわい創出」の施策を展開

各メニューの計画と実施

回遊性創出メニュー



博多まち歩きマップ

配布:10/1(木)~11/15(日)
JR・地下鉄の主要各駅等



博多秋博スタンプラリー

10/1(木)~11/15(日)



博多まち歩きフォトコンテスト

応募:10/1(木)~10/31(土)
展示:12/1(火)~1/22(金)

回遊性支援メニュー



公共交通利用促進



レンタサイクル

10/1(木)~11/15(日)の
9:00~17:00



ベロタクシー

10/1(木)~11/15(日)の
土・日・祝日10:00~20:00

にぎわい創出メニュー



灯明イベント

10/17(土)
17:00頃~21:00頃



博多ハロウィンパレード

10/31(土)
14:00~16:00



オープンカフェ

10/15(木)~10/18(日)
11:00~19:00



ストリートパフォーマンス

10/17(土)・18(日)
12:00~17:30

2-2 実施概要



マップを片手に、今まで知らなかった博多を再発見 博多まち歩きマップ

配布期間:
平成21年10月1日(木)~11月15日(日)

実施目的

- 博多のまちを「住む人」「働く人」「訪れる人」の全ての人に、より良く知ってもらうことにより、博多のまちの魅力を再認識してもらう。
- 再認識してもらうことでまちに対する愛着・誇りを高め、一人ひとりの博多に対する意識の中での繋がりを強めることにより、より良いまちにしていく。

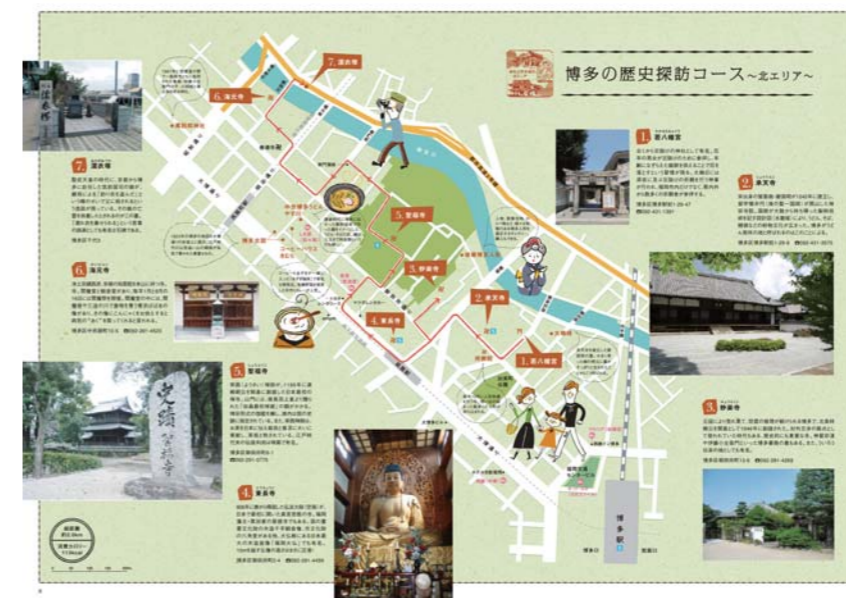
実施内容

- 博多駅地区を中心としたまち歩きコースを新たに設定し、A4版16ページのまち歩きマップを作成。
- 幅広い層に楽しんでもらえるように、定番の「歴史探訪コース」だけでなく、「スイーツ・パン巡りコース」や「アート探訪コース」など7つのコースを設定。
- 博多のOLを中心とした企画提言チーム「Hakatan OL Club」を発足し、同クラブが推薦するおすすめスポットをマップ上で随所に紹介。
- 総計96,000部を作成。博多駅での配布や総合案内所への設置、協議会会員等への配布を実施。

「博多まち歩きマップ」表紙



「博多の歴史探訪コース～北エリア～」



「スイーツ・パン巡りコース」



2 実施概要と今後期待される取組み

- 博多駅地区と天神地区を結ぶ「にぎわい回遊軸」の形成を目指し、天神地区のまちづくり団体である「We Love 天神協議会」と協働で天神・博多まち歩きマップを作成（25,000部）。両地区を一体の回遊エリアとして魅力化を図るため、新たなコースを設定。

「天神・博多まち歩きマップ」表紙



「天神・博多まち歩きマップ」中面



来街者の声



- 写真やイラストがあり、カラーで分かりやすい。
- コース別になっており分かりやすい。
- いろいろな情報（名所から穴場まで）が載っていて面白い。
- 地元の人でも知らなかった場所が載っている。
- もっと詳しい情報や説明が欲しい。

課題

「文字が小さい」という意見が多く、「もっと詳しい情報や説明が欲しい」「マップのサイズが大きい」という意見もあった。情報量の充実度は評価点の一つであるため、サイズを小さくする声に応える場合は、メリット・デメリットの取捨選択を判断しなくてはならない。

今後の取組み

博多が九州・アジアの玄関口であること、2011年春の九州新幹線全線開業を考えると、今後はより広域からより多くの来街者があると思われるため、特に来街者の意見を中心に課題点を少しでも改善する必要がある。あらゆる人々が、楽しく快適にまちを闊歩できるようなマップづくりが求められる。

また、アジア各国からの人々が訪れるまちとしては、多言語によるまち歩きマップも必要不可欠であり、多言語に対応したデジタルマップなどの導入に向けた検討も求められる。

スタンプを集めながら、ぐるっと博多をまち歩き 博多秋博スタンプラリー

実施期間：
平成21年10月1日(木)～11月15日(日)

実施目的

- 「まち歩き」にスタンプラリーを組み合わせることにより、より回遊性を高め、より活気のあるまちづくりを展開する。
- 参加者に楽しい博多を印象づけることでリピーターを獲得し、博多のまちの活性化へとつなげていく。

実施内容

- 例年秋に博多部でスタンプラリーを実施していた「博多遊学プロジェクト」と協働で実施。
- 従来からの博多部でのスタンプポイントに加え、当協議会の活動エリア内にある「住吉神社」「楽水園」「ハイアット・リージェンシー・福岡」「西日本シティ銀行本店」の4箇所スタンプポイントを新設。スタンプ設置箇所は計16箇所。
- また、博多駅地区や博多部で秋に開催される4つのイベント会場（御供所・冷泉ライトアップウォーク／博多灯明ウォッチング／ガイドとまち歩き／JR九州ウォーキング）にもスタンプを設置。
- スタンプが押印された応募用紙を受け付け、抽選で賞品を提供。

応募方法

- スタンプが5個以上たまったら必要事項を明記のうえ、スタンプ設置箇所に設置している投函ボックスへ投入。
- スタンプが15個以上の場合、プレミアム賞品の当選資格あり。

応募状況

- 応募総数は3,388口（昨年度は1,910口／スタンプの押印数は2個）。
- その内、スタンプ押印数が15個以上の応募数は、1,912口にのぼった。

課題

はかたんウォーク以外の博多秋博関連イベント会場4箇所にスタンプが設置されており、周知の徹底という意味では、他プロジェクトとの一層の連携強化が必要。

また、スタンプ押印スペースの番号が、スタンプ設置場所表示の番号と関連があるように認識されることもあり、一部混乱を招いた。

今後の取組み

今年度は、より高い回遊性を実現できたが、次年度も同じ方が参加される可能性を考慮すると、更なる回遊の楽しみ・満足感を体感できるものにしなくてはならない。新規スタンプの設置場所の発掘や、参加促進の新たな仕掛けづくりなどが求められる。

「博多まち歩きマップ」裏表紙
(スタンプ台紙付)



2 実施概要と今後期待される取り組み



一枚の写真で、いつもと違う博多の風景を発見 博多まち歩きフォトコンテスト

応募期間／
平成21年10月1日(木)～10月31日(土)
展示期間／
平成21年12月1日(火)～平成22年1月22日(金)

実施目的

- 「まち歩き」にフォトコンテストを組み合わせることにより、「まち歩き」の楽しみ方の幅を広げる。
- 写真撮影を通して、まちへの観察力を高めることで、博多の魅力を見つけるきっかけづくりとする。

実施内容

- 「博多を歩きたくなるような一枚」をテーマにした、フォトコンテストを実施。
- 気軽に参加できるよう、携帯電話での撮影も応募を受け付。A4チラシや博多まち歩きマップ内を中心に告知。
- (社)日本広告写真家協会から、運営方法のアドバイスのほか、コンテストの周知や、カメラ・フィルムメーカー、家電量販店への協賛依頼などの協力を得て実施。
- 協賛企業からの賞品の提供を受けて、入賞・入選者への賞品を幅広く設定し、応募意欲を喚起。
- 外部の写真専門家の協力を得て、審査会を実施。
- 福岡空港第3ターミナル1階ロビー・福岡市役所1階ロビー・西日本シティ銀行本店ロビーにて写真展を実施し、入賞・入選作品を展示。



<審査委員長>
東島治男 ((社)日本広告写真家協会 理事)

<審査員>
川上信也 (写真家)
百瀬俊哉 (九州産業大学 芸術学部写真映像学科 准教授)
中野量太 (博多まちづくり推進協議会)
丸林凡和 (博多まちづくり推進協議会)

賞品内容	
【最優秀賞】1点	ヨドバシカメラより商品券3万円分+キヤノンよりコンパクトデジタルカメラ
【優秀賞】3点	商品券1万円分
入賞	【まちかど発見賞】1点 商品券5千円分+富士フィルムよりキスターバッグ
	【ほのほの賞】1点 商品券5千円分+ニコンオリジナルカメラバッグ
	【イベントってまいいで賞】1点 商品券5千円分
	【審査員特別賞】1点 商品券5千円分
入選	【富士フィルム賞】30点 富士フィルムより、カメラポーチを進呈

<審査会>



<写真展>



福岡空港



福岡市役所



西日本シティ銀行本店

応募状況

- 応募者数は、170名。応募点数は、392点であった。

入賞作品

最優秀賞

「キャナルシティのクリスマス」



優秀賞

「山笠小僧」



「夕刻の酒屋」



「楽水園の紅葉」



課題

今回は、応募期間が短いにもかかわらず、(社)日本広告写真家協会の周知の協力もあり、初めての実施としては相応の応募数を確保することができた。次回は更なる応募数の増加を図る必要があるため、関係団体との連携を維持することが求められる。

「博多まち歩きマップ」内で告知を行ったが、まち歩きマップ上にお勧めの撮影スポットを記載するなど、もっと冊子情報と一体感のある情報発信が必要。

誰でも気軽に応募できるように携帯電話の写真も受け付けたが、画質が他に劣り、入賞者は出なかったため、携帯電話の写真は表彰部門を分けるなどの対策が必要。

今後の取り組み

携帯電話での表彰部門設置や、関係団体との連携により、楽しみながら博多のまちを歩ける施策として、今後も展開したい。写真ファンだけでなく、多くの一般生活者が参加できるイベントとしての定着を図る。

2 実施概要と今後期待される取組み

博多と天神のスマートな移動を提案 公共交通利用促進

実施目的

- 博多と天神での公共交通機関の利用を促進し、自動車の過度な利用を抑制する。
- 交通結節点におけるシームレス化を図る。

実施内容

- 「We Love 天神協議会」と協働で公共交通利用促進ポスターを製作。
- 博多駅周辺の地下鉄出入口やバス乗り場などが分かる地図と、交通ダイヤを検索できるQRコード付きクリアファイルを製作。
- ポスター・クリアファイルを両協議会会員や福岡市関連施設に配布し、博多駅総合案内所に設置した。



博多駅総合案内所スタッフの声(クリアファイルについて)



- 駅周辺地図が載っており、お客さまにご案内しやすかった。
- 好評だったが、一度に何十部も持ち帰る方もいらっしゃり、工夫が必要。

課題

ポスターの表現が分かりづらいという意見があった。クリアファイルについては、好評だったがゆえに、一度に大量に持ち帰られる方もおられ、対策・工夫が必要。

今後の取組み

ポスターについては、啓発という観点で取り組んだが、テーマが大きいため、協議会のみで取り組むべき問題か、再検討する必要がある。クリアファイルについては、他のパンフレットも収納できるようにクリアファイル形式を取ったが、駅周辺のシームレス化を一番の目的とした場合、仕様をチラシにするなど、再度検討する必要がある。

普段行かなかった博多のあの場所も、自転車でぶらり レンタサイクル

実施目的

- 来街者のまち巡りを促進するために導入。

実施内容

- 博多駅前広場(博多口)に自転車貸出所を設け、電動アシスト付き自転車を10台用意し、貸出しを行った。

利用状況

- 期間中の利用台数は336台。男性の利用が70%にのぼった。
- 主な行き先は、キャナルシティ博多や寺社、天神が多く、観光目的での利用が約60%を占める一方で、ビジネス利用も存在した。

利用者の声



- 博多駅周辺にレンタサイクルが無いので増やしてもらいたい。
- 電動自転車には初めて乗りました。とてもこぎやすかったです。できれば次回も乗りたい。
- おかげで仕事がかどった!
- 自転車で移動するのが好きなので、このサービスを利用して良かった。
- 返せる所がいくつかあると良い。
- レンタカーより安くエコ。市内回りにはこれからも利用したい。
- 期間限定ではなく継続して欲しい。

課題

返却できる場所を複数箇所に設けた方が、利便性が向上し更に満足いただけるサービスとなるが、場所の確保が困難である。

今後の取組み

博多駅前広場の整備に伴い、自転車貸出所の設置が困難になる。
今後は、公共空間も含めた自転車貸出所や返却場所の設置の検討を、行政と共に行っていきたい。

実施期間:
平成21年10月1日(木)～11月15日(日)
9:00～17:00

博多駅前広場の貸出所



2 実施概要と今後期待される取組み



家族と友達と、おしゃべりしながら観光気分 ペロタクシー

実施期間：
平成21年10月1日(木)～11月15日(日)の
土・日・祝日10:00～20:00

実施目的

- ゆったり観光気分であち巡りを楽しんでいただく方のために導入。

実施内容

- 期間中の土・日・祝日に、西日本シティ銀行本店前広場に待機場を設置して運行。

利用状況

- 期間中の利用者は57名。
- 他のイベントでの運行と重なり、配置できた日数は7日に止まった。

課題

他のイベントと重複する日程が多く、配置できない日が多かった。
乗り場が分かりづらく、告知活動に課題を残した。

今後の取組み

今後は、他のイベントとの兼ね合いを見ながら導入を検討していく。

西日本シティ銀行本店前の待機場



実施内容

- 大博通り沿いと出来町公園にて、「第15回博多灯明ウォッチング」と同時開催。
- 大博通りは、電池式の灯明を使用。出来町公園は、博多部まちづくり協議会と共同購入したろうそくを使用。
- 設置場所は、福岡朝日ビル前～博多区保健福祉センター～出来町公園間。設置灯数は、大博通り:行灯50灯+LEDキャンドル674灯。
- 出来町公園の地上絵は、福岡アジア美術館の招聘作家による作品で展開。本協議会より8名、アジア美術館より10名のボランティア参加者が加わり、約4000本のろうそくを使って地上絵を描いた。

参加状況

- 点灯時間中はたくさんの来場者が訪れ、他の灯明ポイントへも回遊しており、盛況であった。



関係者の声



福岡アジア美術館 中尾智路氏

福岡アジア美術館としては、はじめて参加することができ、とてもよかったです。出来町公園の灯明は、「第4回福岡アジア美術トリエンナーレ2009」で滞在していたジュ・チュンリンさんに原画をお願いしました。チュンリンさんは、これから注目されるシンガポールの若手アーティストです。原画のもとになったユーモラスな絵は、今回のトリエンナーレのために制作していたアニメーションの登場キャラクターですが、それが巨大な灯明の絵として浮かび上がったときには感慨深いものがありました。



ジュ・チュンリン氏

課題

博多部の地域イベントに相乗りするかたちで同時開催したが、エリアが広過ぎて時間内に見て回れないなどの意見も聞かれた。一方で、夜店や屋台などのにぎわいが欲しいという意見もあり、滞留時間を伸ばす工夫も求められる。

今後の取組み

集客目的の「御供所・冷泉ライトアップウォーク」や地域行事である「博多灯明ウォッチング」との連携のあり方を再考しつつ、実施内容をより充実させていく必要がある。

2 実施概要と今後期待される取組み

はかた駅前通りでブレイクタイム
オープンカフェ

実施期間：
平成21年10月15日(木)～18日(日)
11:00～19:00

実施目的

- 歩いて楽しい歩行者回遊軸の形成を目指して、オープンスペースでの飲食の提供と憩いの空間を仮設的に創出する。
- にぎわいのある空間づくりを促す。

実施内容

- はかた駅前通りの3箇所の民地内においてカレーやバーガーなどの移動販売車両を、また合わせて4箇所でテーブル・イスセットの休憩スペースを設置して実施した。
- 場所は、①博多駅前ビジネスセンタービル・②損保ジャパン福岡ビル・③福岡コンピュータサービスビルにおいて展開。
- 延べ9種の移動販売車両を用意。
- 期間中は、はかた駅前通りにてチラシを配布し、告知に努めた。



①博多駅前ビジネスセンタービル



①博多駅前ビジネスセンタービル



②損保ジャパン福岡ビル



②損保ジャパン福岡ビル



チラシ配布



③福岡コンピュータサービスビル



③福岡コンピュータサービスビル

実施メニューとスケジュール

ジャワカレー・たこ焼き・バーガー・クレープ・アフォガート(アイスクリーム)・エスプレッソ・パニーニ(イタリアンホットサンド)・ケバブなどを実施。

	①博多駅前ビジネスセンタービル	①博多駅前ビジネスセンタービル	①博多駅前ビジネスセンタービル	②損保ジャパン福岡ビル	③福岡コンピュータサービスビル	③福岡コンピュータサービスビル
	本格ジャワカレー	スティックたこ焼き	花鶴バーガー	エスプレッソ	パニーニ	NYスタイル本格バーガー
10/15(木)	11:00～14:00 16:30～19:00	11:00～19:00	11:00～19:00	11:00～19:00	11:00～19:00	11:00～19:00
10/16(金)	11:00～14:00 16:30～19:00	11:00～19:00	11:00～19:00	11:00～19:00	11:00～19:00	11:00～19:00
10/17(土)	11:00～14:00 16:30～19:00	11:00～19:00	11:00～19:00	11:00～19:00	アフリカンケバブサンド 11:00～19:00	11:00～19:00
10/18(日)	11:00～14:00 16:30～19:00	アフォガート 11:00～19:00	クレープ 11:00～19:00			

利用状況

- 4日間で累計1,362食の実績を残せた。
- 初日は補充が追いつかないなど、好調であった。平日(木・金)は利用者が利用者を呼び、土曜日にもぎわいを確保できた。日曜日は天候不良で思うように売上げを確保できなかった。
- 全体的に博多駅前ビジネスセンタービル前の集客が多かったが、損保ジャパン福岡ビル前でも高い売上げを残した。

関係者の声



福岡地所 溝口直美氏

計画当初は仮設の売台を設置して、色々なメニューを提供できるように考えていましたが、リスク管理の視点から保健所の規制は厳しくなる方向にあり、自由な仮設店舗の設置はあきらめざるを得ませんでした。東京や大阪では、ネオ屋台と呼ばれる移動販売車両は、ランチ難民救済策としてビル管理者が積極的に導入して定着してきています。お弁当を買って事務所で食べるランチは定着していますが、オープンスペースで気持ちよく食事ができる空間があちこちに増えたら、楽しいまちになると思います。

課題

ちょっとしたポケットスペースを雰囲気良くし、通りのにぎわいづくりができる移動販売車両は効果的である。しかし、電源や給排水、また床荷重などのビル側の対応が難しく、さらに駐車場の必要性や、店舗ファサードを遮るために、常設は望まれていない。また、公開空地では一般的には営業利用が制限されることも多く、仮に常設が許可されたとしても、販売側が賃料を払えるほどの売上げが上らないため、イベント的な展開に限られる。

今後の取組み

気候の良い時期に、フリーマーケット等を加えた定例イベントとして規模を大きくして定着させ、地域の人々にも身近に親しまれる施策として展開したい。

2 実施概要と今後期待される取組み



通りに、誰もが参加できるにぎわいを 博多ハロウィンパレード

実施期間：
平成21年10月31日(土) 14:00～16:00

》 実施目的

- 地域の自主的なイベントと連携して、本協議会が許認可申請等の役割を担い実施する。博多の秋の新しい地域イベントとして定着を図り、まちににぎわいを創っていく。

》 実施内容

- 博多リバレーンをスタートして、キャナルシティ博多をゴールに練り歩く仮装パレードを例年通り実施。
- コースは、博多リバレーンフェスタスクエア～川端商店街～キャナルシティ博多サンプラザ。
- 付加イベントとして、フェイスペインティングサービス・フォトスポット設置・お菓子配布・パントマイム大道芸人のパレード参加、仮装審査と表彰式などを実施した。



》 参加状況

- 463名(100組)が参加。今年も様々な仮装でにぎやかに実施できた。

》 関係者の声



CEワークス 篠崎哲也氏

昨年は全体のコースが長過ぎ、信号待ちで隊列が分断されたため、一昨年のコースに戻しました。今年は審査をパレード中に済ませ、表彰式を全参加者で行ったので、最後までみんなで楽しめるものになりました。九州新幹線全線開業後は、はかた駅前通りを歩行者天国にして、1000人規模の大パレードができれば最高だと思います。

》 課題

理想としては、博多駅から天神まで歩行者天国にして、「どんたく」に匹敵する市民のお祭りに格上げすること。現状の規模では、地域全体の行事としては認知されず、はかた駅前通りの歩行者天国化は困難な状況。

》 今後の取組み

自治協議会や企業などの参加も増やし、誰もが楽しめる地域のイベントとして充実させていきたい。



来街者におどろきと笑いのイベントを ストリートパフォーマンス

実施期間：
平成21年10月17日(土)・18日(日)
12:00～17:30

》 実施目的

- 来街者が楽しめるイベントを展開することで、はかた駅前通りににぎわいを創る。

》 実施内容

- はかた駅前通りの西日本シティ銀行本店前広場で、二日間にわたって大道芸を披露。
- 一時間おきに30分程度のパフォーマンスを各日計6回実施。
- ジャグリング、マジックなど3組のセミプロが展開。

》 参加状況

- パフォーマンス実施時には家族連れも含めた来街者が集まり、にぎわいを創ることができた。

》 関係者の声



JR九州 西島義久氏

広いスペースを使ったダイナミックなパフォーマンスで、はかた駅前通りがとてもにぎわっていました。足を止めて観ている方は、カップルや家族連れがいらっしや、笑い声や驚きの声が聞こえて来る様子が印象的でした。

》 課題

演技の場づくりは重要で、照明や音響などのステージ性の雰囲気が通行人を「観てみようか」という気にさせる。オープンカフェ付近でパフォーマンスすることも考えられるが、条件に合うスペースが現状では見つからない。

》 今後の取組み

全国各地で大道芸フェスティバルが定着しており、ストリートパフォーマーの育成と発表の場を提供できるような定期イベントとして展開させることも目標になると思われる。



3 今後のまちづくりイベントの実施に向けて

3-1 博多駅地区の「にぎわい」「回遊性」を実現するために

》 にぎわい向上に寄与する面的・継続的な取組みの実施

博多駅地区は、広い範囲で継続的ににぎわいを生み出す仕掛けに欠けている。博多駅前広場のイベント時を除けば、博多駅地区でイベントが実施されていることはほとんどない。今後の取組みとしては、ビジネス街でありにぎわいに乏しい博多駅地区では、終業後もまちで楽しめるような夜間イベントの実施、または人が少なく閑散としている休日に焦点を当てたにぎわい創出イベントの実施を検討すべきである。

また、ビル建替えや低層階改装時の設計判断に寄与すべく、オープンカフェなどのにぎわい向上策の有効性について、今後も提示し続ける必要がある。さらに、博多駅地区全体でのにぎやかなイメージを創出するためにも、ビルの公開空地を活用しての大道芸イベントの実施や、道路空間を最大限に活用した大規模なにぎわいイベントを創り出し、「どんたく」「山笠」に匹敵するようなイベントの実施も考え得る。くわえて、「どんたく」「山笠」のような既存の大規模イベントの博多駅地区への誘致を働きかけてもよい。

》 回遊性の向上を目的とする周辺地域と連携した取組みの展開

昨年度の「はかたんウォーク」では、灯明イベントなどごく一部のメニューを除き、博多駅地区のみの取組みが中心であった。しかし、今年度は「博多まち歩きマップ」を作成し、博多部との連携の向上に努めた。また、天神地区のエリアマネジメント団体である「We Love 天神協議会」と協働で、「公共交通利用促進ポスター」と「天神・博多まち歩きマップ」を作成した。よって、周辺エリアとの連携に関しては、昨年以上の成果を収めたと言える。

今後も、福岡都心全体の回遊性向上、魅力の向上のためには、より一層の周辺エリアとの連携は不可欠である。また、博多駅地区内における通り名の浸透とサインの充実による回遊支援策については、今年度の「はかたんウォーク」では取組みから外れたが、来街者が増える2011年春を間近に控え、喫緊の取組みと特段の推進体制が必要である。

》 回遊性の向上のための環境整備について

博多駅地区は、2011年春の九州新幹線全線と新博多駅ビルの開業を契機に、これまでより多くの来街者が訪れることが期待されている。

しかし、現状の博多駅地区では、細街路を中心に十分な歩道空間が整備されているところは少なく、また点字誘導ブロックの設置等のバリアフリー対応も十分でないところも多い。博多まちづくり推進協議会に求められる役割としては、地域や行政などと連携を取りながら、「博多まちづくりガイドライン」で定めた博多のまちの目指すべき方向性とその実現に向け、ワークショップなどを重ね、地域の問題解決に積極的に取り組んでいくことが肝要である。

3-2 広い範囲で継続的な取組みをするためのまちづくり組織の活動方針

》 様々な媒体を用いた計画的な広報活動の実施

博多駅地区を望ましい姿に誘導していくためには、博多まちづくり推進協議会の理念でもある「住む人、働く人、訪れる人」が主役となったまちづくりを進めて行くことが求められる。そのためには、博多駅地区に関して、広く様々な人たちからの関心と期待を集め、博多駅地区のまちづくり活動を後押しする世論を醸成する必要がある。

そのためには、様々な媒体を用いて、ターゲットやタイミングも考慮し、戦略的な広報活動を展開することが有用である。

》 既存組織との連携強化と柔軟な組織体制の構築

博多駅地区のみならず、福岡都心全体が一体となったにぎわいの形成、魅力の向上のためには、多様な主体が同地区のまちづくり活動に参画する必要がある。今年度は、昨年度以上に周辺地区の既存組織と連携を取ることができたと言えるが、引き続き情報収集活動に努め、行政や周辺エリアの既存組織との連携をより一層強化していく必要がある。

また、効率的な活動推進のためには、役割が一部の協議会構成員に偏り、過度の負担とならないようにしなければならない。構成員の個々の能力を最大限発揮するために、メニュー別に小グループを作って事業を推進するなど、効果的で機動的な対処が可能となるような柔軟な組織運営が必要である。

》 地域住民を広く深く巻き込んだまちづくり活動の推進

博多駅地区は、ビジネス街というまちの特性上、事業所が多く、ワンルームマンションの単身世帯も多い。よって、地域住民のまちづくり活動への参画は困難を伴う。しかし、自らの居住するまちに対する愛着なくしては、実効的なまちづくり活動は望めない。

そこで、今後の地域住民のまちづくり活動への参画を増やしていくためには、自治協議会などを通して住民組織と深く連携を取っていく必要がある。また、地域住民の方々に企画から実施にいたるまで深く広く関わっていただけるようにする必要がある。そのためには、興味を持ってもらえるような参加型のメニュー（通り名付けなど）を実施し、地域住民の方々が、自主的にまちづくり活動に参加できるような仕組みづくりが求められる。

3 今後のまちづくりイベントの実施に向けて

3-3 博多駅地区におけるまちづくり活動の中長期的方向性

博多駅地区が大きく飛躍するチャンスである2011年春まで残りわずか1年。今回のまちづくりイベント「はかたんウォーク」では、「にぎわい」「回遊性」をキーワードとし、様々なイベントを実施した。例えば、オープンカフェでは、昨年度はテーブルとイスを設けただけの取組みであったが、今年度はネオ屋台をオープンカフェに併設し、一時的ではあるがにぎわいを創り出せたと言える。しかし、この地区が目指す将来イメージ、すなわちオフィスビル等の建物の低層部に商業施設が入った通りの実現には、まだ乖離があり、博多まちづくり推進協議会に求められる役割は大きい。博多駅地区のまちづくりイベントである「はかたんウォーク」を毎年度実施し、効果検証をしっかりと行い、次年度以降の「はかたんウォーク」の反省材料とするというサイクルを確立することが重要である。

継続的なイベントの実施が、博多駅地区のにぎわい形成へと寄与し、「住む人、働く人、訪れる人」が、年々、まちづくりイベント「はかたんウォーク」に広く深く参画していくことこそ、博多のまちの発展へとつながると思われる。今回のまちづくりイベント「はかたんウォーク」の成果を活かし、今後の博多駅地区のまちの発展を期すために、今後の取組みの方向性及び組織のあり方について、下記の6つの事柄を意識して取り組みたい。

1. 玄関性の演出

およそ1年後に迫った九州新幹線全線開業、新博多駅ビル開業による来街者の増大に対応するため、九州・アジアの玄関口としての機能を高める準備が急がれる。具体的には、通り名付けやまち案内地図の充実が必要である。今年度は、博多まち歩きマップを作成し、博多駅に到着してからのまち歩きコースの紹介などで周辺エリアとの連携を取ることができた。また、「公共交通利用促進」メニューや「天神・博多まち歩きアップ」では、天神地区と連携を取ることができた。今後は、博多部や天神地区のみならず、他地区との一層の連携強化によって、来街者が増える2011年春以降に備えることが肝要である。

また、不慣れな来街者に道案内をする際は、通り名は非常に有用なツールであり、優先的に取り組むべきメニューである。また、来街者が博多駅に到着した際に「博多らしさ」を実感できるようにするため、山笠をはじめとした博多の伝統文化の演出など、独自の歴史や文化に基づいた取組みは重要であり、そうした取組みには高い優先順位が与えられるべきである。

2. 建物更新の機会を捉える

博多駅地区では、博多駅地区土地区画整理事業により都市基盤が整備されてからおよそ40年が経過し、いずれ多くの建物が更新期を迎えることになる。この機会を捉え、民間のビルオーナーの協力を得ながら、歩いて楽しい歩道空間の形成を目指すため、オープンカフェやお休みどころ、あるいはポケットスペース有効活用策としての物販機能やパフォーマー誘致など、博多まちづくりガイドラインに定めた博多のまちの目指すべき方向性とその実現に向け、既存ビルの建替えや低層階改修時の設計判断に影響を与える事を目的とした継続的なイベントを実施すべきである。

3. 道路の特性に応じたまちづくりの推進

博多駅地区には、博多まちづくりガイドラインに定めているように、“人の活動空間を確保し、風格ある景観を形成すべき「大博通り」”、“楽しさあふれる回遊主軸を形成すべき「はかた駅前通り」”、“歩行者・自転車の安全性・快適性を形成すべき「住吉通り」”など、通り毎にまちづくりの方針と方策は異なる。また、はかた駅前通りを中心に、博多駅地区全体における歩行者中心の歩道・道路空間再配分の検討は、それぞれの通りの空間特性を十分検討したうえで、実現すべきである。その実現に向けては、行政と連携した様々な取組みを通じ、市民に広くその有効性を訴えながら実現を図っていくべきである。

4. 博多駅地区全体の取組みの推進

今回の「はかたんウォーク」は、博多駅地区とキャナルシティ博多地区を結ぶ「はかた駅前通り」でのオープンカフェの設置、ストリートパフォーマーなど中央回遊軸の形成に重点をおいたイベントであったが、天神地区と連携しての公共交通利用促進メニューや、博多駅地区のみにとどまらない博多まち歩きマップの作成など、周辺エリアとの連携も強化された。今後は、博多駅地区のみにとどまらない、周辺地区と連携した「にぎわい」「回遊性」形成に重きを置いた様々な取組みの検討が必要である。例えば、現在の博多駅地区には人々がまちに留まるような憩いのスペースが少ないことから、博多駅地区全体で憩いの場となるようなポケットパークのあり方を考える「公園づくり」ワークショップの実施や、その結果を踏まえた取組みが考えられる。

5. 博多部・天神地区といった他地区との連携強化

博多駅地区のみの取組みでは、福岡都心全体の回遊性向上、魅力向上への貢献は限られたものになる。今年度、「博多まち歩きマップ」や「公共交通利用促進」などの一部のメニューにおいては、周辺地区との連携を取ることができた。今後は、博多部や天神地区といった個性ある地区との連携をより一層強化し、福岡市都心全体が一体となったまちづくりに取り組んでいくことが必要である。

6. 組織力強化と財源の確保

以上のような、取組みを実現するにあたって、博多まちづくり推進協議会自身に高い組織力やチームワークが求められる。また、イベントを実施するための財源の確保、行政ほか様々な主体との連携も必要である。博多まちづくり推進協議会の実行力及び推進力を維持・向上させ、「博多まちづくり宣言」にて宣言した博多駅地区の理想型に近づけるためにも、多数の構成員に、それぞれの強みに応じてまちづくり活動に積極的に参画してもらうための工夫も必要である。例えば、実施メニュー毎に小グループを立ち上げて取り組むような体制を早期に実現し、その力を充実させながら今後のまちづくりに取り組むことが求められる。

今年度で2回目となった「はかたんウォーク」が、地域住民の方々や来街者、博多駅地区の諸企業、行政機関の多大なご尽力のもとに無事終了しました。関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

昨年度は、社会実験実行委員会を立上げて推進を行い、“交通社会実験”的な要素が強い内容でありましたが、今年度については、「博多まち歩きマップ」を中心に据えて、昨年度は若干取組みが弱かった“回遊性の向上”や“にぎわいの創出”“周辺地域との連携”を主眼としたメニューを、はかたんウォークプロジェクトメンバーで選定し、取組みを行なってきました。

今回取組んだ各メニューの成果については、前に触れられているところですので、ここでは詳しくは述べませんが、「はかたんウォーク」実施期間中に、博多のまちで多くの方が「博多まち歩きマップ」を片手に散策している姿が見られたことが、今回の取組みの成果をもっとも強く実感できた瞬間でした。

今回の取組みにあたっては、前回の礎があるとはいえ、マップの作成やフォトコンテスト等の新たなメニューもあり、また、昨年度実施したメニューにおいても、より周辺地域との連携を深めた取組みを行なうなど、準備に当たっては大変な面もありましたが、プロジェクトメンバーをはじめとした関係者の“熱い思い”と“強靱な行動力”によって無事実施することができました。関係者の皆様につきましては、改めて心から御礼申し上げます。

博多のまちが“みんなから愛され”“みんなが誇れる”まちになるような取組みのきっかけが、今後も「はかたんウォーク」で実現されていくことを切に願うとともに、今回の取組みを、博多駅地区の今後のまちづくりに少しでも活かしていただければ幸いです。

平成22年3月
はかたんウォークプロジェクト
プロジェクトリーダー 佐藤哲也

はかたんウォークのメディアでの広報・広告実績

<広報>

●9月実績

- 21日(月) RKBラジオ「長谷川法世の夕焼け海童」
- 25日(金) うふふ福岡10月号
- 28日(月) よかなび(福岡市観光HP)
- 30日(水) 朝日新聞

●10月実績

- 1日(木) 市政だより10/1号
- 3日(土) リビング福岡10/3号
- 5日(月) 博多経済新聞
- 10日(土) FBSテレビ「ギモン解決!ふくおかQ」
- 16日(金) 朝日新聞(オープンカフェの様子)
- 16日(金) ザ・ながさき647号
- 23日(金) 毎日新聞
(はかたんウォークの取組み全般)
- 23日(金) シティリビング10/23号
- 25日(日) うふふ福岡11月号
- 31日(土) リビング福岡10/31号

<広告>

●9月実績

- 18日(金) ぐらんぞ10月号
- 18日(金) エルフ10月号

●10月実績

- 1日(木) 西日本新聞朝刊記事下
(10月中に3回掲載)
- 1日(木) 西日本新聞夕刊題字下
(10月中に20回掲載)
- 1日(木) 博多遊学ブック
- 1日(木) 福岡ビーキ
- 20日(火) エルフ11月号



市政だより10月1日号



リビング福岡10月3日号



朝日新聞10月16日



毎日新聞10月23日